

(2) 学業不振児 (1)

意義	学業成績が下位で、素質的に能力の低い子と能力を発揮していない子
事例	勉強がきらい、努力するが学業が伸びない。知能のわりに不振
原因	(1) 性格、対人関係 (2) 学習のしかたの無理解 (3) 身体的生理的条件 (4) 環境そのものの悪条件
治療	(1) 性格面の特性を考えた指導助言、対人関係の改善、自己統制訓練 (2) 個人にあった学習計画と学習のしかたのくふう。悩みの相談。 (3) 身体的生理的条件の改善 (4) 家庭環境、親子関係の改善充実、教師との密接な連絡。

① 在籍状況

氏名	性	所属
T・S	男	N中2年

② 現症の概要

- ア、知能は4の段階にあるが、学業成績は2の段階にある。
- イ、まじめに学習しているが、消極的で応答も満足にできない。
- ウ、学習に対する意欲がなく、集中力や深まりがたりない。

③ 現症の起始・経過

- ア、小学1年の検査で、知能はS.S 5 5 (段階4) あるのに、学力はS.S 4 4 (段階2) である。
- イ、悩みの調査では、学習に自信がない、友だちがいなことを訴えている。
- ウ、親子関係では、父の厳格型に対して子は

不安型の傾向がみられる。

④ 診断・指導の方針

- ア、知能の割に学力が低く学業不振児とみられる。
- イ、学習意欲が乏しく、学習のしかたが機械的であきやすい。
- ウ、身体的には健康で、あらゆるスポーツに自信をもっている。
- エ、社会性不足のため、交友の範囲がせまい。
- 養育態度の改善につとめる。
  - 学校と家庭の連絡を密にする。
  - 学級担任の事例研究的指導をする。

⑤ 治療・指導の経過

- ア、運動に熱中させ、喜びと自信をもたせた。
- イ、学級の班内でリーダーになれる役を与えて活動させた。
- ウ、面接相談をすすめて問題点の除去につとめた。
- エ、本人の力にあった学習日課表をきめて計画的に学習させた。
- オ、両親と面談して、本人の長所を理解し、不安感の解消にあたった。
- カ、まず好きな教科の予習をして1日1回以上発言するようすすめた。
- キ、進路指導を行なって、将来の目標と実現の可能性をもたした。
- ク、学習技術の理解向上につとめた。
- ケ、毎日予習してくるようになった。
- コ、建設的な意見を活発にのべるようになった。
- サ、自主的な行動がみられるようになって、学力も知能なみに向上した。
- シ、性格も親子関係も改造改善に向った。

※ 面接相談を重ねてレポートを深め、学級や家庭の不安傾向を解消させ、得意なものを伸ばし、受容的態度で研究的に指導した結果で、担任と本人の努力をたたえたい。